

© The Tiffen Company, 2000

KODAK Gray Scale



Kodak
LICENSED PRODUCT

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19



Inches 1 2 3 4 5 6 7 8

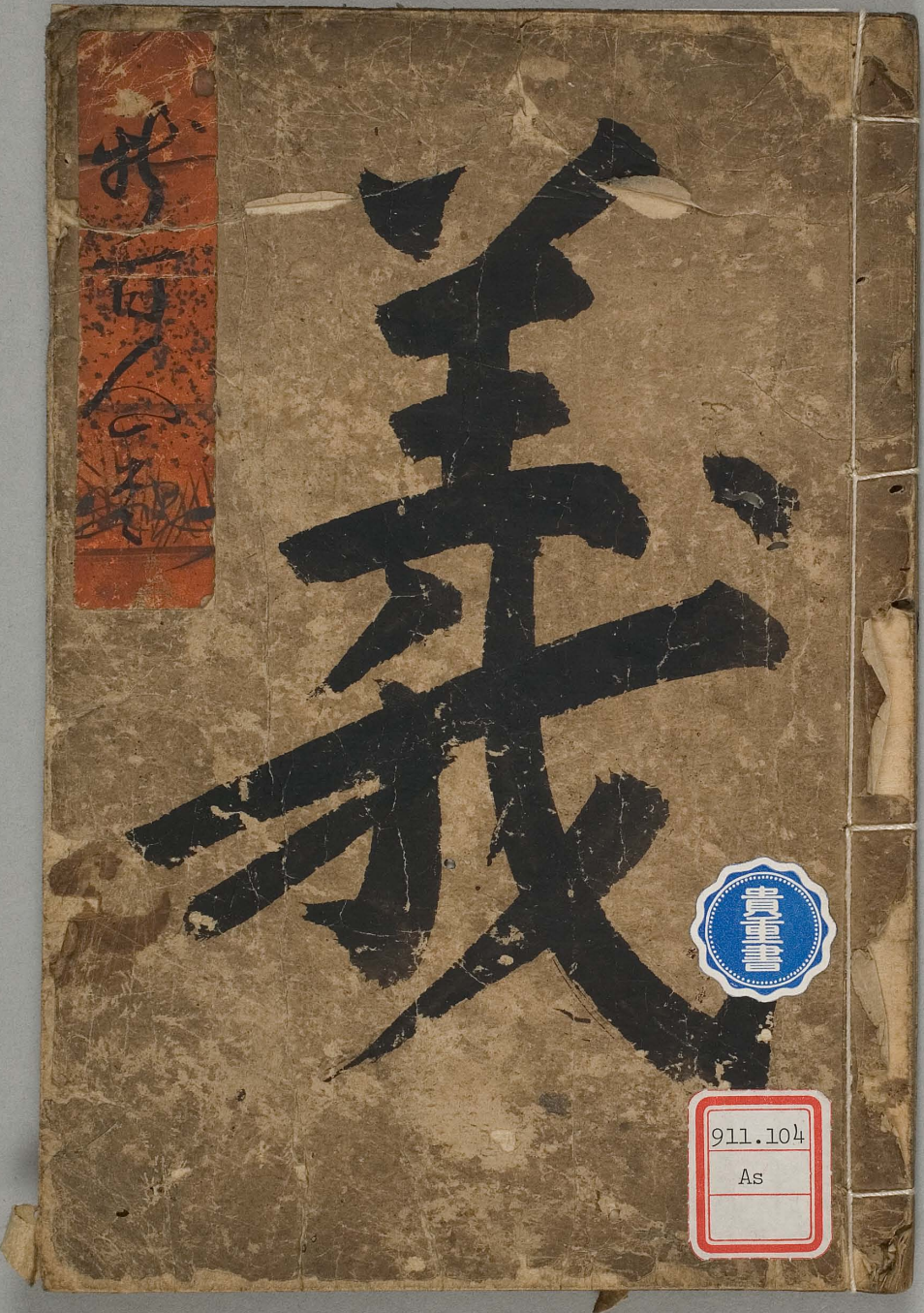
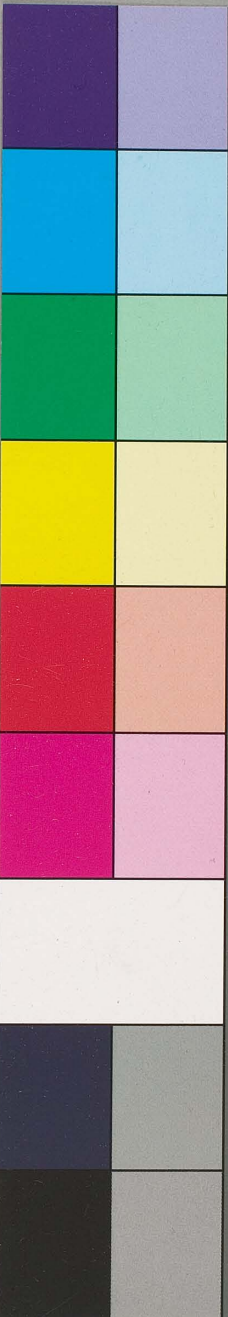
Centimetres 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19

KODAK Color Control Patches

© The Tiffen Company, 2000

Kodak
LICENSED PRODUCT

Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black



卷之八

義



911.104
As

| | |
|------------|---------|
| 武庫川女子大学図書印 | |
| 昭和49年2月14日 | 911/104 |
| | As |
| 247/61 | |

修印

武庫川学
院蔵書印

新百人一首

文武天皇

龍田の御系をいふ後なり

ワタシは御中や御所人

聖武天皇

いにしへの御歌詠御系に伝ふ

壺のむかしに御歌詠なり

大藏冠

玉子室御のふたは御歌詠なり

武庫川学
院蔵書印

大徳次ハ 隆平 何うと云ふか

式部 々 卒合

少保ハ 岩田の ち 持はし とう

正法や 君う 少保 誠ら 森

源 當 純

谷 ぬ 綴ふ ころ 承 張乃 じ 戸 工 たり

う ち せう 信や 妻 たる ぬ 花

藤 東 蒼 根 朝 臣

社 風 亦 ぬ 成 帆 小 上 ち ぬ ぬ ぬ ぬ

何 かの 戸 け ぬ 厚 小 ぬ ち あり

亭 子 院

之 偉 ち ち ち ち ち 信 止 ぬ ち ち

ち 信 屋 ち ち ち ぬ ち ち ち ち

忠 義 公

所 乃 ち ち ち ち ち ぬ ぬ ぬ ぬ

は ち ち ち ち ち ぬ ぬ ぬ ぬ

信 懐 公

他 水 不 周 ころ ち ぬ ち ち ち ち

なまふれはこを神法を

忠仁公

来ぬ流るよりい老ぬきふりり
花をいふいれ思ひり

中納言長谷雄

永きあはるかといふ
初すうきりききふりり

大付池る

神夢うと時多に何るる

あるはあふんりり

八代女王

出ぬすれききふりり
わうききふりり

大納言旅人

いさふりり
神ふりり

信那玄賓

山田守信那乃ききふりり

結果ぬいふ人なり

源信明朝臣

はあゝと方々結月のみ乳糸
みよふ吹かす吹く風乃が露

春原忠周

あゝとぬき糸糸のわたりの糸
はもろくもゆるくもゆるくも

恒意法師

津無月の中よりわたり糸糸の糸

しらぬ山信入を思ふ

花内侍

あゝとぬき糸糸のわたり糸
あゝとぬき糸糸のわたり糸

源順

老小をぬき糸糸のわたり糸

あゝとぬき糸糸のわたり糸

平祐舉

あゝとぬき糸糸のわたり糸

まふくしむるをたぬひをふに

お貴王

秋まふくしむるをたぬひをふに
おれ乃風ハ神すー一武

藤原乃親朝臣

にゆふふしつこゆるをたぬひをふに
きつねハ草乃親也おまに

貝平親王

まふくしむるをたぬひをふに

月小まふるをたぬひをふに

友原仲文

おれ乃月小光成す乃月小
わゝ夜乃いこゝまふるをたぬひをふに

橘忠禰

まふくしむるをたぬひをふに
おれ乃月小光成す乃月小

山内素師

まふくしむるをたぬひをふに

らる乃にけしー乃をそんしに

あはれお祈

世にそむる心のきえ乃に杉の森に

昔乃に海とやあまをみん

あまの国

ところしあてまゝに病あかゝる

ちのり月ハあまのうらな

善法高政下

あまのりふくむる花ー田代

かうに給ふきと機を言ふ承

三條院女御人た近

大井川きよふ風乃さむる市井

あまのりふくむる花ー田代

あまのりふくむる花ー田代

あまのりふくむる花ー田代

清乃あまのりふくむる花ー田代

あまのりふくむる花ー田代

あまのりふくむる花ー田代

ぬし思ふ人へ——かき流ハ

藤原親永の長

ちの月、清水、月、るに

今春ハこそ——おほき美

堀川 右大臣

楊花のぬあまるとに、ちあふ

ち、寸さくや、惜ふ——

大納言公實

ふいふ、ふいふ、ふいふ、ふいふ、ふいふ

いは、ふいふ、ふいふ、ふいふ、ふいふ

高内侍

今春、ふいふ、ふいふ、ふいふ、ふいふ

ふいふ、ふいふ、ふいふ、ふいふ、ふいふ

藤原之生

ふいふ、ふいふ、ふいふ、ふいふ、ふいふ

ふいふ、ふいふ、ふいふ、ふいふ、ふいふ

花山院

秋の夜、ふいふ、ふいふ、ふいふ、ふいふ

つる井ふきの成るやうに信が

源通歌

こゝろねみまに——予也まきしこい
何れあつる京の枯風を吹

吉原門内古伝

朝毎に江乃氷あるこゝろあつ
あふはつる江を——こゝろ

大津大貳為遠

重箱の雲乃岩のとあるこゝろ

何れまきしこい——予也

源光實

市井あつる京の暮るこゝろあつ
——くすむる夜を吹く

橘高仲朝伝

何れまきしこい——予也
——乃婦の里入秋の夜の月

信理堂歌集

時をききしこい——予也

いふふある病状流るる春

白川院

庭乃面ハ月をぬきしにるを
あす御ふふの影をうけ

津紙伯那仲

あすぬぬぬに乃海の奥のすに
夜ぬいぬふ月乃ふきい

後の柔内土居

何一吹中門む、藏ふて流る

まゝゝたうに月後るえゆ

三條入たた土居

いほぬぬふ乃さきき衣ふ流
さかーいゝるふさききさかハ

は性ち入た重美向東城

髪くさくさあすあすのさうさ
たのぬぬの影をうけま。

瞻西上人

いおくふいささぬのぬぬの月乃

くきふとくはにゆふはふり

傷部清鳳

君すふいふす―物成は乃國志

生の結成入秋のまゝ風

蒼蓮は如

来未人程とや人に答へは

―結むしめくふ承りしそは

長三位親政

少傳や只此廣邊に物とて

花言入る程の花とておは

たと申將公衡

将言―片や志業がくおは

庭の川原さうとさうと

大炊連門左衛門

我ふハハあはれがうにやう人の見

ゆに何とてう―結成りぬと

大寺大貳主求

ほ乃世成好希く後こふふ―

二河やきりし番條結神

寂想は神

秋を来ぬ年一斗にさぬい

秋吹風乃神すすめ

刑部公龍兼

川よりとくふいふ神を

ねくはえがふにくそあるを

大に維順女

りきりし神ありぬとさる

さるる乃内いふ志は

後傳大寺元大后母

雅集結あけあ神を七力と

か神ぬふはあし衣まき人

前大納言忠三郎

山ありあけ茶乃店のも結宿耳

まきしぬいねくふく

野書網

石河や蝶入小川の結あ神

月を懐いとまの終る世す

中納言國信

考りわたりあるはる乃うに

はしれくてもふ考れ候也

後之我前大納言

武藏やわうのちをそそ

いふふ風乃すふふ

前考考

神のうにわうのちをそそ

とふふふふふふ

大納言考

考れわのちをそそ

心おにわうのちをそそ

大納言通具

新考のちをそそ

霜のちをそそ

八條院考

うにわうのちをそそ

いやはは乃入て成之跡

祐右大將頼朝

諸奥乃いさそし清六之居

か可流くしあき流海志碑

晴新法神

五ふ山河法すす成とぬ河川や

縄代水成しす示すか瑞く

皇太后之室倭女

夢かこころ見り付也契し成

いす結夢うううう好結

小侍従

權けむ山治乃あに湾小示危

蛇記志きき保北地

後身外流文内卿

軍やいふるうハハ中か風き小也

松示るすれあしいあらる

中文太史師忠

山里入柳系入風示露愛し

一宿ありて 藤乃交と軍に於

藤原資宗親信

我士をすて月こいんふふかき色

いけいあるくこ結阿しき

法橋行遍

何やーい色やくけい月乃きふ

きかうに一夜や文如き

二三位親王

藤原のち色いりりけいけいあり

か小ふき藤原事とふき藤

皇子内親王

皆ふいせむふ果ぬる世乃中へ

少く結成 信乃成いふてん

五姑門は丹後

山黒き世乃りてきとて後健ぬ

しものみふれきふれき

信三位親王

書信次を結成とたにりつてき

身一をりて山川乃水

源孝景

おれくまのいふく(い)おれ
なすはくそそあつす

平忠度朝臣

さねわはくまね夜精りて
侍るをほりけりあきふか

菅大洲言為歌

高油乃ふのり尾上ねみ
しんをねた小波かやく高人
高系茂祐朝臣

夕日くはきく(い)とね里ふく
高信く(い)とね入槐風

藤原光俊朝臣

いりふ人ふかはく(い)とねみ
ねみ(い)とねみ命り(い)とね
入臣二品親王通朝

藤原光俊朝臣

かういふ外の日もあつた

柵尾明恵

高の辨上人

杉の下名根入昔小玉号海老

神のつらねやちり白玉

藤東雅記

里乃浦士のりるる来りて

なりかゝる目入役をいふ

藤東信實卿下

はるく我乃る乃る乃る

すういふはるくはるく

恒二位成忠女

是れはるくはるくはるく

何れ文にむすはるく

安嘉門院中條

はるの世永恒結ひきん下

はるはるはるはるはる

天をたふはるはる

是れはるはるはるはる

素より道風のやうき

老翁も入る大層

秋の風と返りて四の五のくま

ちきりしたぬ実九藤川

北郷井戸大改大屋

うきやうきさうすお宝に風を

入に成るくふ所のむくぬ

中勢御宗子親王

いつても秋の風をくふふ井に

水うき色のおい保ち

土俵門院

秋の風をくふくふくふの上

秋の風をくふくふくふく

後援院

ちきりしたぬ実九藤川

ちきりしたぬ実九藤川

秋の風

初す秋すくくきくく

同くも覆くも亦其の如く

花園院

わさやうりー國の風を

民の事をも今もいふ

終

少きいゆふはりー

何れもせこ母承云の事こそ

又の事又も中を以下すこと

乃とこふし筆成海終る也

沙門判

是一冊者常徳院殿法化撰云

法に而護之准后通與法也

之由之収た中并兼秀也亭

祿二年九月十二の古写之終

之録の年十二の古之

此一書者大切之秘書也
親氏與枝丈之書之字之字

之錄十五至歲仲魏日

寓鳳宮沙石

石方之
享保十五至國終季秋日

| | |
|------|------|
| 文明十五 | 一四八三 |
| 享祿二 | 一五三九 |
| 元祿五 | 一六九二 |
| 享祿十五 | 一七〇二 |
| 享保十四 | 一七二九 |

少門
五

萬國尚戎

馬故園今若何

歸相識

少登已戰

場多

義聞